

生田緑地およびその周辺でのスイセンハナアブについて

Notes on *Merodon equestris* (Fabricius, 1794) (Diptera, Syrphidae)
in Ikuta Ryokuchi Park and its neighborhood, Kawasaki City

脇 一郎
Ichiro Waki

Abstract

Merodon equestris (Fabricius, 1794) has been carried from foreign country to Japan in 1953. It has been firstly recorded in 1998 from Ikuta Ryokuchi Park, Kawasaki City. Recently they have been recorded every year in the north area of Kawasaki City.

緒言

スイセンハナアブは双翅目、ハナアブ科 (Diptera, Syrphidae) に属するハナアブの一種で、海外から持ち込まれた種とされている (桐谷圭治・森本信生, 1993)。本種はスイセンをはじめ園芸種や野生種の球根植物に幼虫が寄生する。ヨーロッパではスイセンの害虫として広く知られている。日本で発見されたのは1953年、神奈川県でということになっているが、どうゆう経路で持ち込まれたのかは明白になっていない。また、1953年以降どのような展開をしてきたのかも、その後の追跡調査がしっかりされておらず明らかではない。生田緑地を含む川崎市北部において初めに記録されたのは1998年 (伊東, 2002) で、以後毎年記録されており、確実にこの地域に定着しているものと思われる。

調査方法

花に来ているものを捕虫網で見つけ採りするか、♂は占有行動をとるのでその箇所を見つけ、待ち伏せして飛来するものを捕虫網で掬う。

調査結果

採集しえたスイセンハナアブの記録を下記に示す。尚、参考のために既に報告済みのものおよび文献より引用したデータならびに提供されたデータも含めた。

多摩区生田緑地

2♂1♀, 4.V.1998 (1); 2♂, 30.IV.1999 (2); 9♂, 2.V.2000 (2); 6♂, 23.V.2000 (2);
3♂2♀, 28.IV.2001 (3); 1♀, 2.V.2001 (3); 3♂, 7.V.2001 (3); 3♂, 2.V.2002 (3);
1♂, 11.V.2003; 1♂, 22.V.2003; 1♂, 26.V.2005; 6♂ 1♀, 21.V.2006 (枅形6丁目);
2♂, 21.V.2006 (枅形7丁目); 8♂ 2♀, 21.V.2006 (初山1丁目)。

麻生区早野

2♂ 27.IV.2003 (4); 1♀, 10.V.2006 山本 晃 採集。

麻生区黒川

1♀, 2.V.2002 (3)。

横浜市青葉区寺家町 (麻生区早野に隣接)

1♀, 22.V.2006 山本 晃 採集。

考察

本種を調査するには4下旬から5下旬にかけて晴天の日、訪花中のものを見つけるのが確実である。とくに、これも外来種であるハルジオンの群落で待機するとよい。2006年の生田緑地では、初山地区で緑地の中を走る人道脇の荒地に咲き誇るハルジオンの群落、枅形7丁目、梅園下のハルジオンの群落、枅形6丁目の谷間の探勝路の中に造られた水田上のハルジオン群落、そして戸隠不動〜芝生広場間の取り壊され

た人家跡のハルジオン群落に多く集まっていた。写真1, 写真2, 調査を始めた1999年は北部公園事務所下の細道で本種♂が占有行動をとっており、ここで多く採集できた。

麻生区での調査では、早野と黒川で記録があるが、生田緑地ほどの好条件(ハルジオン群落)を備えた場所に遭遇しておらず、記録の数は少ない。2006年には、黒川谷ツ公園やはるひ野の谷戸が調査地域に加えられたが、ハルジオンの群落は見られたものの、調査時期を誤ったためか記録できなかった。本種は前述したように園芸種を主とした球根植物に幼虫が寄生する。ヨーロッパではスイセンの害虫として有名であるが、日本では未だその被害が報じられたことはなく、川崎市北部でも寡聞して筆者の耳には届いていない。今後観察を継続する必要がある。

成虫はかなり強壯で、闘争心が強く、訪花中も他種(ナミハナアブなど)を追い散らす行動が見られるが、なにせ花が多いので本行動による在来種への影響はほとんどないものと思われる。幼虫の食性も在来種には影響は無さそうである。となると、園芸植物への被害が騒がれるようになるまではしばらくは勢力を伸ばし続けるのではなかろうか。

謝辞

調査でお世話になったかわさき自然調査団の皆さん、とりわけ岩田臣生、芳美ご夫妻、山本 晃氏、鎌倉正人氏に心から深謝の意を表したい。

参考文献

- (1)伊東憲正, 2002. 生田緑地の半翅目・膜翅目・双翅目の若干の記録, 神奈川虫報(139): 29-32
 - (2)脇 一郎, 2002. 生田緑地でのミバエ, ハナアブの採集記録. 川崎市青少年科学館紀要(13): 107-109.
 - (3)脇 一郎, 2003. 川崎市生田緑地でのムシヒキアブ, ハナアブ, ミバエ, ヤチバエの採集記録. 川崎市自然環境調査報告書V: 234-241
 - (4)脇 一郎, 2004. 神奈川県での双翅目昆虫の採集記録. 神奈川虫報(145): 25-41
- 桐谷圭治・森本信生, 1993. 日本の外来昆虫. インセクタリウム 120-129.

著者紹介

脇 一郎 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 昆虫班 (物故)



図1 スイセンハナアブ (生田緑地)



図2 ハルジオンの群落 (生田緑地)

本報文は故脇 一郎氏が、2006年度に特定非営利活動法人かわさき自然調査団が川崎市北部公園事務所からの委託を受けて実施した生田緑地等における特定外来生物影響調査の昆虫調査に参加し、その調査報告として書いた報文であり、当該調査の担当責任者であった岩田が受け取って保管していたものである。外来生物調査の報告書は学术论文としての形式をとっていなかったため、この調査で得られた知見のみを使い、この報文は使用しなかった。

脇氏は残念ながら、その年(2007年)の9月に逝去した。

このため、この報文を公表する機会は無かったと思う。

そこで、第7次川崎市自然環境調査報告書に掲載させて戴き、弔意を表したい。